

それぞれ10名程度を無作為抽出し、研究担当者が調査員となって実施した。

(3) 調査対象と標本数

学年	性別		計
	男	女	
小学校 5年	30	30	60
〃 6年	30	30	60
中学校 2年	30	30	60

総計として 180名実施した。

い長子や中っ子、末っ子の少人数兄弟関係に関題をしぼって考える時期にきているといえよう。

② 父母の有無

表 2

項 目	実 数	%
父 が い る	777	90
父 が い な い	83	10
母 が い る	835	97
母 が い な い	25	3

III 調査結果の概要

A 質問紙法からみた概観的考察

調査 I 標本と子どもの傾向

本年度は、家庭生活の子どもの傾向はどうかをみるための基礎資料として、兄弟の数、父母の有無（共働きの様子）祖父・母の有無の調査をあげた。ただ単純集計結果の集約のみで一般的状況をとらえただけである。

① 兄弟の数

表 1 (単位%)

項目	小 学 校		中 学 校	
	男	女	男	女
1人っ子	8.8	5.6	4.5	1.9
兄弟1人	54.2	40.2	45.8	23.8
2人	30.4	39.1	34.7	33.4
3人	5.3	11.5	11.2	31.4
4人	0.7	2.4	3.2	8.9
5人	0.3	0	0.6	0.6
6人	0.3	0.6	0	0
7人	0	0.6	0	0

1人っ子は、1.9~8.8%であり、兄弟数は2~3人が大部分の状態である。都市・農村をとわず前回の調査より差が少なくなっているのがわかる。人口問題で話しあわれていることが現実になりつつあるのが、表1より読みとれる。それにとりま

両親といっしょにいるのが望ましいが、約1割の家庭には父親がなく、母親欠如の家庭は、父親欠如の家庭の3分の1である。ただ父がいないのは別居か、死亡のためかは、明らかでない。

③ 祖父母の有無

表 3

項 目	実 数	%
祖父母ともいる	201	23
祖父だけいる	44	5
祖母だけいる	220	26
両方ともいない	395	46

全体の4分の1が、祖父・母が両方健在であり、全体の約3分の1弱が、祖父か祖母の片方がいっしょに住んでいる。祖父・母のいない者は、46%で、約半数である。核家族化が進む現状で、やはり老人と住む家庭が、半数以上いることも忘れてはならない現状であろう。

④ 父母の働いている様子

表 4

項 目	実 数	%
両方働いている	597	69
どちらか片方	255	30
だれも働いていない	8	1

共働きしている家庭は、半数以上（69%）にのぼっているし、年々増加すると思われる。

また子育ての終わった母親は、進んで働きにでる